

# 体育（保健領域）

## 第6学年体育科（保健）学習指導案

平成23年〇月〇〇日（〇）第〇校時  
 〇〇小学校第6年〇組 計〇〇名  
 指導教員 〇〇 〇〇  
 授業者 〇〇 〇〇

### 単元名

学習指導要領ならびに学校の指導計画に合わせて設定する。

### 指導目標

学習指導要領に示された目標、内容に基づいて設定する。

### 評価規準

単元の指導目標を基に評価規準を設定する。  
 児童の学習状況を適切に評価し、指導に生かしていくために、学習活動に即した具体的な評価規準を設定する。  
 保健領域は、左記の3つの観点で評価する。

### 単元について

学習指導要領解説等により、単元がもつ教育的意義を記述する。

### 1 単元名 保健「病気の予防」

### 2 単元の指導目標

病気が起こる要因や予防の方法について理解し、日常生活をよりよく営むために改善しようとする態度を養う。

### 3 単元の評価規準

| 観点               | ア 健康・安全への関心・意欲・態度   | イ 健康・安全についての思考・判断  | ウ 健康・安全についての知識・理解  |
|------------------|---|--|--|
| 単元の評価規準          | 病気の起こり方と予防の方法について関心をもち、すすんで課題を見付けようとしたり、意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。  | 病気の起こり方や予防について課題を設定し、知識を活用して実践的に解決の方法を考え判断し、それらを表している。   | 病気の起こり方や予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。   |
| 学習活動に即した具体的な評価規準 | ① 自分や身近な人の経験した病気の例などを基に課題を見付けようとしている。<br>② 病気の起こり方や予防の方法について、人に聞いたり、教科書などの資料を基にしたりして調べようとしている。<br>③ 自ら調べたことや考えたことをすすんで発表したり、友達の意見を聞いたりしようとしている。 | ① 病気の起こり方や予防について、自分の経験や友達、家族など身近な人々の生活などを振り返り、問題点を見付けることができる。<br>② 病気の起こり方や予防について課題解決の方法を調べて関係を見付けたり選んだりして、それらを説明することができる。<br>③ 病気の起こり方や予防の方法について学習したことを、自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 | ① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合っ起こることを理解している。<br>② 病原体が主な要因となって起こる病気とその予防の仕方について知っている。<br>③ 生活習慣が主な要因となって起こる病気や、その予防の仕方、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響について知っている。<br>④ 病気を予防する意義や方法について知っている。 |

### 4 指導観

#### (1) 単元について

病気の特徴やかかり方、日常生活における予防の仕方などについて、単元をとおして学習する。特に最も身近な病気として風邪やインフルエンザについての特徴と予防法、その病原体の特徴を学ぶことをとおして、日々の生活を改善しようとする意識をもたせることを主な目標とする。児童にとって身近な病気であり、今までインフルエンザにかかった経験をもっている児童もいる中で、実際の経験談も踏まえながら風邪やインフルエンザなどの病気のことを取り扱うのは、自分の生活を考える上で非常に適していると考えられる。

エイズについても、病原体がもとになって起こる病気の一つとして取り上げ、血液による感染を中心に、その原因と予防法を学習する。また、エイズ患者やHIV感染者を忌避することなく、共に生きていくことの大事さを教える機会にもしたい。エイズに限らず、あらゆる病気について、感染者、患者と共に生きる社会をつくっていくことの大切さに気付かせる機会と捉え、道徳や特別活動との関連を密にした指導計画も工夫したい。

### 体育科（保健領域）の指導計画の作成に当たっての基本的な考え方

指導計画の作成にあたっては、第3学年「毎日の生活と健康」、第4学年「育ちゆく体とわたし」、第5学年「心の健康」及び「けがの防止」、第6学年「病気の予防」の5つの内容について指導する。保健領域に相当する授業時数は、第3学年及び第4学年で8単位時間程度、第5学年及び第6学年で16単位時間程度とする。また、第3学年から第6学年の保健については、系統性のある指導ができるように、発達の段階を踏まえて保健の内容の系統化を図るとともに、効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当する。

指導計画を作成するにあたっては、

- 単元のねらいを検討する。
- 児童が主体的に健康・安全問題に取り組み、解決する力を育てられる学習課題を明確にする。
- 話し合いやブレインストーミング、実習、実験などを取り入れた実践的な学習を考える。
- 養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員、学校医、保護者等の参加や協力が得られる学習を考える。
- 児童の実態や取り扱う教材の特性などを考慮して単元の指導計画を作成する。
- 一単位時間の学習指導案を作成する。

などを考慮して作成することが必要である。

体育・健康に関する指導は、体育科の時間だけでなく、家庭科などの関連の教科や道徳、特別活動のほか、総合的な学習の時間なども含めた学校の教育活動全体を通じて行うことによって、その一層の充実を図ることができる。

また、体育科（保健領域）における道徳教育の指導においては、健康・安全についての理解を深め、自分の生活を見直すことにつながるよう、児童と共に考え、感動を共有していく姿勢で指導に当たるよう計画する。

(2) 児童の実態について

6年生は今までにインフルエンザの予防接種などをおして「インフルエンザ」という言葉を知っている。実際に風邪やインフルエンザにかかった児童が過半数はいる。そのため、「インフルエンザにかかると高熱を出して苦しむ」「熱が下がってもすぐに登校できない」等インフルエンザにかかった際の怖さについて、自分や友達、家族等の体験をおして理解している。

反面、給食前の手洗い等、予防のための基本的な生活習慣が身に付いていない児童も多い。「自分がかからない」「予防接種をしているから大丈夫」等のように考え、病原体の特徴や日々の生活を意識できていないことが原因と考えられる。

そこで本単元では、風邪やインフルエンザといった身近な病気をとおして病原体の特徴を知り、一人一人の児童が日々の生活を見直すようにしていきたい。

また、本学級の児童は、一学期に道徳の授業で「人権について勉強しよう」に取り組み、人権作文を書き上げている。しかしエイズについて、本や資料を通じての知識的な理解にとどまっており、身近な人権問題として捉えているものは少ないようである。エイズと闘ったHIV感染者の記録や手記を読み聞かせ、差別や支援の現実に気付かせながら、エイズ患者やHIV感染者に対する基本的な人権の尊重にもつなげていきたい。

(3) 教材について

病気は体の中で起こる出来事である。そのため目に見えずに身近なこととして理解しにくい。目に見えないで徐々に進行する病気の様子をできる限り具体的な教材を用いて目に見える状態にし、理解を深めたい。それぞれの病気の症状は、写真や絵や模型などを用いて具体的なイメージをもたせていきたい。※「人権教育プログラム」を活用する。

|                      |                     |                               |
|----------------------|---------------------|-------------------------------|
| <b>&lt;病気の予防&gt;</b> | ア 病気の起こり方           | (病原体・体の抵抗力・生活行動・環境など)         |
|                      | イ 病原体がもとになって起こる病気   | (病原体が体に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めること)  |
|                      | ウ 生活行動が関わって起こる病気の予防 | (望ましい生活習慣、偏りのない食事、口腔の衛生を保つこと) |
|                      | エ 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康     | (喫煙・飲酒・薬物乱用等は健康を損なう原因となること)   |
|                      | オ 地域の様々な保健活動の取組     | (健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動)   |

5 指導計画 (3時間扱い)

| 主題        | 時 | ねらい  | 学 習 活 動   | 評価 (評価方法)   |
|-----------|---|--|---|---|
| 1 病気の起こり方 | 1 | 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こることを理解できる。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>かかったことのある病気や知っている病気をあげ発表する。</li> <li>風邪などの身近な病気を取り上げ、どのようにして病気になってしまうのか考える。</li> <li>病気は、病原体、環境、生活の仕方、抵抗力が関わり合って起こることを理解する。</li> <li>病気について、これまでの生活を振り返り、今後の生活に生かせることを考える。</li> </ul>                | アー① (観察・発言・ワークシート)<br>イー① (観察・発言)<br>ウー① (発言・ワークシート)    |
|           |   | インフルエンザの予防について理解し、生活の改善に関心をもつ。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>インフルエンザを例に出し、症状や起こり方について考える。</li> <li>インフルエンザについてのクイズを通して、インフルエンザの病原体の特徴や感染経路について知る。</li> <li>クイズをもとに、どのような状況下で感染しやすいのか考える。</li> <li>生活をよりよく改善していくための実践を考える</li> </ul>                               | アー② (観察・発言・ワークシート)<br>イー①・③ (観察・発言)<br>ウー①・②・④ (ワークシート) |
|           |   | 病原体がもとになって起こる病気(エイズ)の起こり方やHIV感染者への差別の現実を知るとともに、病原体がもとになって起こる病気の予防について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>人の体の「抵抗力」について考える。</li> <li>エイズとはHIVウイルスが血液中に入ることによって起こることを理解し、体の中にウイルスが入る道筋について考える。</li> <li>HIV感染者に対する差別と支援の現実を知る。</li> <li>病原体がもとになって起こる病気の予防は、病原体を体内に入れないことと、体の抵抗力を高めることが有効であることを理解する。</li> </ul> | アー③ (観察・発言)<br>イー② (観察・発言)<br>ウー①・② (観察・発言・ワークシート)      |

児童の実態

単元に関する既習事項、児童の興味・関心などの実態を記述する

教材について

各種教材・教具、地域の人材、学習環境等活用方法及び児童に身に付けさせたい力について記述する。

<指導計画>

単元全体をおしてつなぐ・取り組む・つなげるの学習過程を計画する。

学習内容について興味・関心を高めるための動機付けを大切にしながら、病気の起こり方や予防の方法について理解し、生涯にわたって自分の健康管理・改善をしようとする態度の基礎を身に付けられるよう指導計画を作成する。養護教諭や学校医等の専門性を有する教職員の参加・協力が得られるようにするとよい。

<言語活動の充実>

- 体育科における(保健領域)「言語活動」では、次の点に留意する。
- ①適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用する。
  - ②人権に関わる内容が多いので、児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を築くこと。
  - ③体験や観察を基に話し合い、身近な生活に課題を見付けたり選んだりする活動を充実する。
  - ④健康に関わる概念や原則を基に、自分の生活と比較したり、身近な生活との関係を見付けたりしたことを説明する等の活動を充実する。

保健領域の指導に当たって

保健学習の指導に当たっては、次の点に配慮する必要がある。

- 児童の興味・関心や意欲などを高めながら効果的に学習をすすめるために学習時間を継続的または集中的に設定する。
- 体ほぐしの運動と心の健康、けがの防止と運動の実践など運動領域と保健領域との密接な関連をもたせて指導する。
- 食事の内容については、食育の観点を踏まえながら学校給食に関する指導との関連を図って指導する。
- 健康の保持増進に必要な思考力・判断力を育成するためには、習得した知識を活用する話し合い活動や実習・実験などの体験的・実践的な学習活動を積極的に取り入れる。
- 地域や学校の実情に応じて健康や安全、食育に関する専門性を有する教職員や学校関係者の参加や協力を得ながら多様な指導方法の工夫を行う。

6 本時の指導（全3時間中の第2時間目）

(1) ねらい

インフルエンザの予防について理解し、生活の改善に関心をもつ。

(2) 展開

| 段階   | 学習活動・内容  | 指導上の留意事項・評価規準（評価方法）  |
|------|--|--|
| つかかむ | 1 前時を振り返り、インフルエンザの症状と起こり方について考える。<br>・だるくなる、咳、めまい、高熱、頭痛、病原体が入ることによって病気になる。<br>2 本時の課題を知る。<br>インフルエンザの予防法を考えよう  | <ul style="list-style-type: none"> <li>インフルエンザにかかったことがある人の大変だった体験談を聞き、その時どんな様子だったかを聞くことで身近に感じさせる。</li> <li>体の中に病原体が入ってくることによって病気になるなど、病気の起こり方を前時の学習から引き出す。</li> </ul>  |
| 取り組む | 3 インフルエンザに関するクイズを通して、インフルエンザの病原体についての特徴や感染経路について知る。<br><クイズの例><br>Q1：インフルエンザ予防について、湿度は高い方と低いどちらがいいか。<br>Q2：手の洗い方で不十分なところはどこか。<br>Q3：免疫細胞は何をすると増えるか。<br>○ 掲示資料や教科書等を基に、班ごとに話し合う。<br>○ 話し合ったことをワークシートにまとめる。<br>○ 発表やクイズの解説を基に、インフルエンザの特徴や感染経路について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>クイズをとおして「道筋を断つ」「抵抗力を高める」「発生源を断つ」の3つがインフルエンザ予防に有効であることに気付かせる。</li> <li>自分や友達が病気になった時の体験も交え、感染の原因を考えさせる。</li> </ul> <p>[評価規準 イー①]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験をもとに、インフルエンザの起こり方を考えている。（観察・発言）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>クイズ内容と前時のことを考えさせながら日常生活で適用できることを考えさせる。</li> </ul> <p>[評価規準 イー③]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病原体を体に入れない方法を考えている。（観察・発言）</li> </ul> |
| つなげる | 5 個人や自分たちができることを話し合う。<br>・うがい、手洗いをする。<br>・部屋の換気を意識する。<br>・運動をし、体力を付ける。<br>7 次時の授業の予告を聞く。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表で出た意見を「道筋を断つ」「抵抗力を高める」「発生源を断つ」の3つに整理して理解できるようにする。</li> </ul> <p>[評価規準 アー③ ウー④]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活において適切な対策を考え、行動しようとしている。（観察・発言・ワークシート）</li> </ul>  |

本時のねらい

本時の学習を通して、身に付けさせたい指導のねらいを明確にする。

本時の展開

<つかむ段階>

具体例を挙げながら前時の復習をし、本時の学習の見通しをもたせる。

<取り組む段階>

身近な生活における病気の原因やその予防に強い関心を持ち、自ら問題点の解決に努力するとともに、友達の考えを聞いて正しい知識を身に付けるようにする。

関心を高めるため、本時はクイズ形式を取り入れる。

<つなげる段階>

自ら進んで病気の予防に関心を持ち、健康的な生活を実践しようとする行動力まで高めるようにする。

一人一人が安心して自分の考えを発表し、友達の考えを聞いて、病気の予防法について考えをまとめたり、学級のルールづくりができるまでにする。

評価について

保健学習の評価にあたっては、健康に関する児童の主体性を育成することから、意思決定や行動選択の力、つまり学び方を重視しながら観点ごとに評価する。また、日々の実践につながるような発言や記録を授業の中で観察する評価や、健康に関する知識が身に付いているかを確認することも大事にする。

(3) 板書計画

インフルエンザの予防法を考えよう

インフルエンザにかからないようにするには

病気の起こり方

- ① 病原体がいる
- ② 病原体が体に入る
- ③ 体が弱っている

クイズ1 (クイズの解説)

クイズ2

クイズ3

(児童が考え出した  
その他の予防法)



人への感染経路

①うがい・手洗いをしっかり行う。

②かん気やしつ度を意識する。  
(道筋を断つ)

③休み時間は外にでて運動をする。

④予防接種を受ける。

⑤規則正しい生活をする。

(体のていこう力を高める)

⑥インフルエンザウイルスをなくす。

※ 学級のルールをつくる。